

「サムライのおしゃれ—印籠・刀装具・風俗画—」
2023年6月17日(土)～7月30日(日)

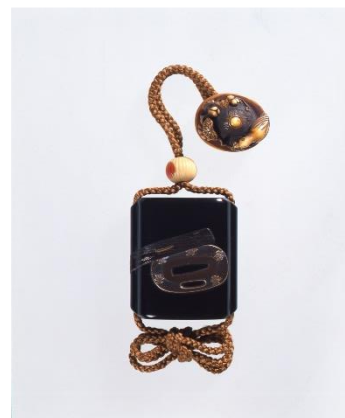
静嘉堂文庫美術館のコレクションには、武家文化の日常生活の中ではぐくまれたサムライの装身具である刀装具、提げ物の印籠根付の優品が豊富です。こうした近世の美術工芸品は、海外では浮世絵と同じく日本を代表する美術品として高く評価され、明治期以降、ネクタイピンやカフスポタンのようなおしゃれな品として、世界中の愛好家に愛玩、蒐集されてきました。本展では、こうしたいわば“サムライのおしゃれ”を御覧いただくとともに、おしゃれな江戸時代の人々の様子を生き活きと描いた、近世初期風俗画なども併せてご紹介いたします。

【開催概要】

- 会 期：2023年6月17日(土)～7月30日(日)
- 会 場：静嘉堂@丸の内(明治生命館1階)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館1階
- 休 館 日：毎週月曜日(ただし7月17日(祝)は開館、7月18日(火)休)
- 開館時間：午前10時～午後5時(金曜は午後6時まで)※入館は午後4時30分まで
- 入 館 料：一般1,500円 大高生1,000円 中学生以下無料
- 問い合わせ：TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)
- ホームページ：<https://www.seikado.or.jp>
- twitter：@seikadomuseum
- 主 催：静嘉堂文庫美術館(公益財団法人静嘉堂)

<本展のみどころ>

- ① 静嘉堂所蔵の江戸時代の印籠・刀装具を精選
- ② 近世初期風俗画に見る“サムライのおしゃれ”にフォーカス
- ③ 貴人たちのおしゃれの世界



柴田是真「刀装具蒔絵印籠」
江戸時代・19世紀

【みどころ①】 静嘉堂文庫美術館が所蔵する江戸時代の印籠・刀装具を精選



いしぐるこれよし 石黒是美「花鳥図大小つぼみどころもの鐺三所物」江戸時代・19世紀

ふじまるうつしあいちしらす おさふねかねみつわきざしふぞく 「藤丸写合口拵(長船兼光脇指付属)」江戸時代・19世紀

江戸時代、「士農工商」の身分制度のなかで、大小の刀を腰にさすことは、武士の特権でした。朱塗や金色のきらびやかな鞘の装飾は平和な時代になるとすたれ、黒に統一されます。江戸城はじめ殿中の勤務ではだいとう大刀を預けても、しょうとう小刀は常に腰に帯びました。サムライのおしゃれは深い光沢の漆黒の艶に凝る結果となり、江戸時代の黒漆塗りは大きく発展したのです。

海外からも日本の黒漆塗は羨望の的となり、ピアノの黒塗は日本刀の鞘塗りに触発されたといわれます。刀装具のうちの拳を守るつぼ鐺やペーパーナイフのような小柄などの細かな金工も発展しました。鉄や銅を地金として、彫刻や象嵌、あるいは薄い金などの板を着せ付ける色絵といった様々な装飾技法が発展しました。江戸時代の刀装具の意匠は、ネクタイピンやカフスポタンのように、サムライたちのおしゃれを示す代表となり、富裕な町人の間にも広まりました。



はらようせうきい 原羊遊斎「雪華せつか蒔絵印籠」

根付:雪華文鏡蓋

江戸時代・19世紀

印籠とは、腰に提げて中に常備薬を携行する道具です。近世初頭に海外からもたらされた袋物が始まりですが、江戸時代に大きく発展しました。本来の用途からは離れ、腰に提げるおしゃれな装飾品として、男性の必需品となりました。将軍や大名も自分の好みの意匠や材質で花鳥風月、四季草花、故事人物などを描かせ、印籠蒔絵師専という門職が生まれました。落下防止のため帯に通す先端部分のねつけ根付、印籠と根付の間で緒を締める緒締おじめの専門の職人も生まれ、技術や意匠を競いました。江戸の街には、サムライのおしゃれアイテムを手掛ける工房が次々に花開いたので、将軍や大名たちは、各家の伝来の由緒のある茶の湯道具や美術品とは違い、個人の好みを自由に反映した日常品である印籠を注文製作して、贈答や交換をしました。中には個人で数百個の印籠を使用目的ではなく蒐集愛玩する大名もあり、近代以降現代まで、印籠はコレクターズアイテムとなります。静嘉堂文庫美術館には、揃いの箱に収まる276個の印籠コレクションがあり、本展では選りすぐりの優品を紹介します。

【みどころ②】 近世初期風俗画に見るサムライのオシャレにフォーカス



重要文化財「四条河原遊楽図屏風」江戸時代・17世紀

桃山～江戸時代初期(16世紀後半から17世紀前半)にかけ、上方を中心に「近世初期風俗画」と呼ばれる、庶民の生活が主題となった屏風や襖絵が誕生します。重要文化財「四条河原遊楽図屏風」はその代表的作品で、等身大の人間模様が生き活きと描かれています。歌舞伎者と呼ばれるオシャレな風態をした人、遊女や若衆らがファッションリーダーとして登場し、老若男女がそれぞれのオシャレをして描かれます。

【みどころ③】 貴人たちのオシャレの世界



重要文化財

「^{かっこ}羯鼓催花・^{ちみじのが}紅葉賀^{みつだえ}図密陀絵屏風」
桃山—江戸時代・17世紀

片隻には唐の玄宗皇帝・楊貴妃にちなむ逸話。皇帝が着飾った楽師たちの揃う前で、^{かっこ}羯鼓を打ち鳴らすと木々の花が一斉に開いた吉祥の逸話の瞬間が描かれています。今一方は、『源氏物語』紅葉賀の一場面で、美青年・光源氏と頭中将が御所で青海波の舞を披露すると神のような美しさとたたえられる、『源氏物語』の中でも最も祝福性の高い帖です。舞い姿には、鞆の先が見え、太刀を佩いていることが分かります。漆と油彩の一種である密陀絵を複合して、性質の違う材料を使用して、人物の肌色や白い花をあらわしています。

その他、当館を代表する国宝「曜変天目(稲葉天目)」も展示致します。

【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局(共同 PR 内 担当:三井)

※在宅勤務も増えているため、メールでいただけると助かります。

E-mail:seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail:press@seikado.or.jp(広報担当:大森)